

監修
上里隆史

琉球・沖縄



モーイ



チン



ソーミンタシヤー



ハーリー



ヤンバルクイナ



ヤチムン

もっと知りたい！
くらしや歴史



ウチナーグチ



ウチカビ



ヤー



サンバ



エイサー



ウミ

もくじ

琉球から沖縄へ	4
南の海にうかぶ島々	6



ウミ [海]	8
ツワーチチ [天気]	10
ヤー [家]	12
ハルシクチ [農業]	14
アギヤー漁 [追いこみ漁]	16
ケームン [食べ物]	18
チン [着物]	22
ヤチムン [焼き物]	24
モーイ [おどり]	26
ウタ [民謡]	28
ウチナーグチ [沖縄語]	30
カミ [神さま]	32
グワンス [先祖]	34
沖縄の年中行事	36

ナカゲデー [歴史]

12～15世紀	アジアの国々とさかんに貿易	40
15世紀後半～18世紀	琉球王国の繁栄と、薩摩藩からの侵攻	42
琉球王国ってどんな国？		44
19～20世紀はじめ	琉球王国がほろび、沖縄県が設置される	46
20世紀中ごろ	太平洋戦争が開戦、沖縄が空襲の被害に	48
20世紀中ごろ	悲慘な沖縄戦が開戦、「鉄の暴風」がふきあれる	50
20世紀中ごろ	1945年の夏、戦闘が終結	52
20世紀中ごろ	「アメリカ世」のなか、日本復帰への声が高まる	54
20世紀後半	ふたたび、日本の沖縄県に	56
20世紀後半	新しい一歩をふみだした沖縄	58
21世紀	さまざまな問題と向き合いながら成長をつづける沖縄	60

はじめに

現在、世界には200近くの国と地域があります。どの国にもそれぞれの歴史があり、豊かな文化があります。

今は、日本の都道府県の一員となっている沖縄県ですが、かつては「琉球王国」というひとつの国でした。国をまとめていたのは、首里城に住む王さまです。人々は船で広い海へどこぞ出し、中国や日本、アジア諸国と行き来して、めずらしい品物をたくさん持ち帰りました。街からはウチナーグチ（沖縄語）の会話が聞こえ、島の作物をつかったおいしい料理や美しい着物など、さまざまな文化が生まれました。

平和で国際的だった琉球王国ですが、時代のあら波のなか、現在の「沖縄県」へとかたちを変えていきました。姿は変わっても、古くから育まれてきた文化は、くらしのなかに色濃く残っています。

おだやかな時間が流れる現在の沖縄は、同時にさまざまな問題をかかえてもいます。なかには、長い間解決されないままとなっていることもあります。そうした問題がなぜ生まれたのかを知り、わたしたちはどうやって向き合うべきなのかを考えるためには、歴史をひもとく必要があります。

この本では、沖縄の文化と歴史についてくわしく紹介しています。ニュースで沖縄を見たときや、沖縄を実際に訪れたときに、感じたことや疑問に思ったことをよりいっそうほり下げてみましょう。

この本で用いる言葉について

この本では、生き物や行事などの名称を可能な限り沖縄語で表記しています。沖縄語は、カタカナでの表記を主としていますが、漢字での表記が一般的な語や、漢字での表記が理解の助けになる語については、漢字にフリガナをふって表しています。

ウチナーグチ 沖縄語の方言 ウチナーグチは、地域や島ごとにさまざまな方言があります。この本ではおもに、沖縄本島南部の言葉で表記をしています。

ヤー 家



写真は、竹富島の風景。竹富島では、伝統的な家屋の保存に力を入れている。

沖縄の伝統的な家屋

琉球王国の時代から、沖縄では土地で手に入る材料をいかした家づくりが行われてきました。高温多湿の気候や、台風にも対応できるよう、昔の人は、さまざまなくふうをこらして家を建てました。

現在では、昔ながらの家屋は限られた場所でしか見ることはできません。しかし、伝統的な家屋には、昔の人の知恵が詰まっているのです。

暑い夏も気持ちよくすごせるよう、とびらやふすまをあけて、風を通すことができるつくりになっている。



伝統的な家づくりを見てみよう

沖縄で昔建てられていた家には、どのようにふうがほどこされているのでしょうか？

フール(トイレ)



トイレはブタ小屋の一角にあり、排泄物がブタの飼料となった。

ウシムトゥー(台所)



台所は土間にあった。火を使う場所なので、「火の神」をまつる。

フクギの木



台風の風から家を守るために、への内側にフクギという木を植えていた。

トートーメー(仏壇)



母屋の中央には仏壇がある。家族は、先祖に見守られながらともにくらす。

ヒンブン

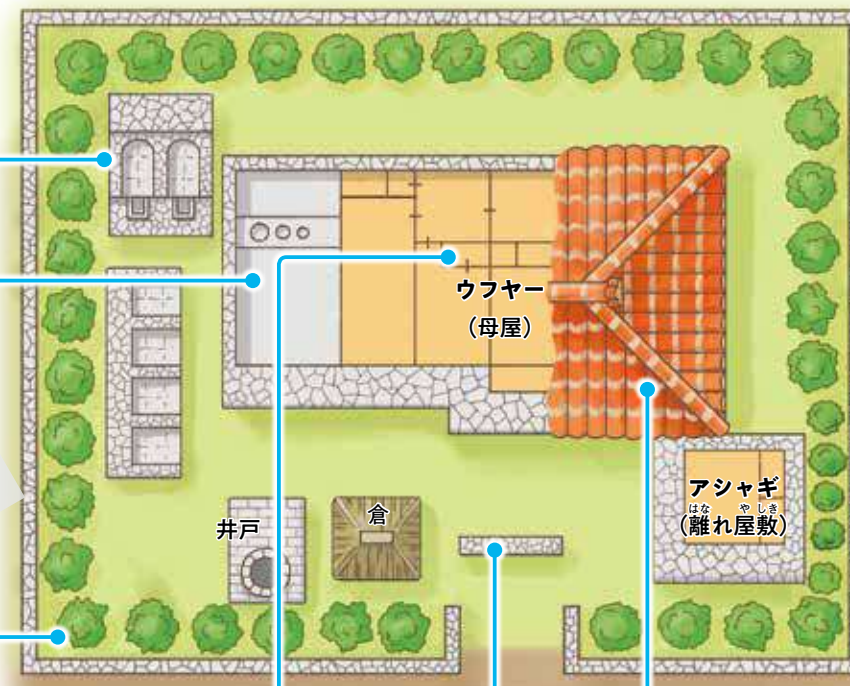


家のなかのようすが見えなようにする、目かくしのためのへい。中国の「屏風面」が元といわれている。

シーサー



シーサーは15世紀に中国から伝わった。魔物を追いはらうとされ、明治時代から屋根に置くようになった。



このヤーはつよいヤー



台風に強い、鉄筋コンクリートづくりの家がふえている

鉄筋コンクリートは風に強く、潮風にあたってもさびたりいたんだりしにくい特徴があります。太平洋戦争後、アメリカ軍によってコンクリートづくりの建物がつくられるようになったことをきっかけに、沖縄では鉄筋コンクリートづくりの家がだんだんとふえていったのです。





ウタ

民謡



スマートフォンやタブレットでQRコードを読み取ると、民謡を聞くことができるよ。

写真：藤井一広 / アフロ

「ドミファソシ」の5音にのせて 日常のできごとや恋心を歌う

沖縄の音楽のはじまりは、12～15世紀の「神遊び」だといわれています。神遊びとは、神に歌をささげる儀式です。その後、さまざまな楽器が中国から伝わり、琉球王国では中国の使者をもてなす宮廷音楽が発展しました。

一方、農民の間で広まってきたのが民謡です。楽器の音にのせて仕事や恋を歌います。日常の思いを歌った民謡は、今も大切に歌いつがれています。



石垣島で毎年行われる「とうばら一大会」。とうばら一とは、八重山列島の方言で恋人や恋歌を意味する言葉で、伝統歌謡のこと。

写真：南山会提供

沖縄の民謡にかかせない楽器

沖縄の民謡は、手びょうしや楽器の音にのせて歌われます。楽器がかなでるリズムはかかせないものです。

サンシン 三線

14～15世紀に中国から原型となる楽器が伝わり、琉球王国で進化した。胴の部分にはニシキヘビの皮が張られている。

サンバ 三板

三枚の板を組み合わせた小型の楽器。片手で指を動かして鳴らしたり、右の絵のように、両手で鳴らしたりする。

ファンソウ

琉球王国の時代に中国から伝わった横笛。

パーランクー

片面だけに皮が張られていて、手持ちで演奏する。エイサーにかかせない楽器。

クーチョウ

中国から伝わった胡弓という楽器をもとにしている。昔は弦が3本のものが主流だったが、今は4本のものもふえている。

ウフデー ク 大太鼓

エイサーにかかせない楽器で、エイサー太鼓ともよばれる。大きな楽器なので、演奏するときはひもでからだにつり下げる。

新しいウタも聞きたい



伝統を受け継ぎながら 生み出される新しい音楽

現在は、沖縄の民謡を土台として、ロックやブルース、ポップスなどの要素を取り入れた、新しい音楽が生まれています。沖縄の伝統的な楽器である三線や大太鼓にピアノやギターの音を組み合わせるなど、新鮮な印象の楽曲は、多くの人に親しまれています。



1980年代から活動するバンド、ビギン（上）や、西表島出身の池田卓（右）など、多くのアーティストが活やくしている。



19～20世紀
はじめ

琉球王国がほろび、 沖縄県が設置される

19世紀に入ると、ヨーロッパの国々やアメリカがアジアに進出しました。そのなかで、日本では江戸幕府がたおされ、明治政府が成立します。明治政府は、琉球王国を日本に組みこもうと動きだします。そうして1879年、沖縄県が設置されました。



琉球史劇、『首里城明け渡し』の一場面。写真は、琉球王国最後の王となった尚泰王が、明けわたした首里城の姿を、中城御殿からながめているようす。中城御殿は王のあと継ぎの王子が住む屋敷で、首里城から少し離れた場所にあった。

写真：琉球新報社提供

琉球王国から琉球藩、 そして沖縄県へ

1868年に誕生した明治政府は、中国・日本の両国と関係をきずいてきた琉球王国を、日本に組みこむことを決めました。1872年、まずは琉球国王を「琉球藩王」に任命。そして1875年には、琉球王国と中国の関係を断つために朝貢を中止させました。琉球王国は強く抗議しましたが明治政府が思い留まることはなく、1879年、首里城に軍隊が送りこまれました。琉球王国の尚泰王は、首里城を明けわたすしかなく、琉球王国は滅亡することとなりました。そして、沖縄県が設置されました。



明治政府は、1879年4月4日、「琉球藩ヲ廃シ沖縄県ヲ置ク」と記した書類を発表。琉球藩の廃止と沖縄県の設置を全国に宣言した。

写真：国立公文書館所蔵

自治権を取りもどそうと、民権運動が盛り上がる

沖縄県の知事や県庁の要職は、ほかの府県からやってきた実力者によってかためられました。また、鹿児島や大阪からやってきた商人たちが、米や黒糖の取引を独占して、沖縄の経済を支配しました。この状況にたえかねて、琉球の旧士族たちは沖縄出身者による自治を取りもどそうと、運動を行うようになりました。この動きは若い世代にも広がり、農民出身の謝花昇などによって活発になりました。

謝花昇 (1865年～1908年)
東京帝大 (今の東京大学) を卒業後、沖縄県庁に就職。しかし8代目の県知事・奈良原繁の強引な政策に抗議して辞職。辞職後は「沖縄倶楽部」を結成し、奈良原の県政をたおそうと運動した。



「同化政策」で、琉球王国時代からの文化が抑圧される

明治政府は「同化政策」によって、沖縄の人びとに日本の言葉や文化を取り入れることを強制し、沖縄側も差別をのがれるために、同化を進めていきま

した。古くから育まれてきたさまざまな習慣や文化は価値の低いものと決めつけられ、一方的に禁止されてしまったのです。



奄美諸島や琉球の島々では、女性が両手にいれずみを行う習慣があった。しかし1899年、明治政府は禁止とした。



成人した男性はカタカシラといって、髪の毛を頭のてっぺんで結う習慣があった。しかしこの髪型も禁止された。



沖縄の言葉、沖縄語も禁止された。学校で沖縄語を話すと、罰として上の絵のような方言札を首にかけられた。

1920年代、砂糖の値段が 暴落し、深刻な経済不況に

沖縄県となったあとも、黒糖の生産は沖縄の経済を支える大切な産業でした。

1914年に第一次世界大戦が始まると日本の景気が上向いて黒糖の値段も上がりました。沖縄も好景気となりましたが、1918年に第一次世界大戦が終わると、景気は一気に悪化。黒糖の値段が急落して、沖縄は大不況となりました。農村では米やイモも口にすることがむずかしくなり、ソテツの実※を食べるしかないと追いつめられた状況となりました。

※ソテツの実には毒があり、そのまま食べることはできない。沖縄や奄美地方では、手間ひまをかけて実からデンプンを取り出し、それを食用とした。

安定した暮らしを求めて、
多くの人が海外へ移住！



大不況となった沖縄では、海外へ移住して生活を立て直そうとする人が続出した。上の写真は、移住先であるハワイのサトウキビ農場で働く人たち。

▶国別の移住者数
(1899～1938年)

国名	移住者数
ハワイ	19,507
米国本土	803
カナダ	403
メキシコ	764
キューバ	113
ペルー	11,311
ブラジル	14,829
アルゼンチン	2,754
ボリビア	37
フィリピン	16,426
その他	5,187
総数	72,134

参考資料：琉球政府統計庁「琉球統計年鑑」